

## いせき せつめい 遺跡の説明

あさかわせんじょうちいせきぐん、いづなやま すいげん あさかわ せんじょうち うえ  
浅川扇状地遺跡群は、飯綱山を水源とする浅川によってつくられた扇状地の上であり、  
ぜんこうじだいら ほくぶ いち いせきぐんない ながのしきょういくいいんかい はつくつ  
善光寺平の北部に位置します。遺跡群内では、これまで長野市教育委員会による発掘  
ちようさ おこな  
調査が行われています。

- よしだこうこう いせき やよいじだいこうき よしだしきどき なまえ  
・吉田高校グラウンド遺跡…弥生時代後期の「吉田式土器」の名前のもとになった遺跡
  - まゆみだ じょうもんじだいちゆうき こふんじだい しゅうらく  
・檀田遺跡…縄文時代中期、弥生時代中期～古墳時代後期の集落遺跡
  - きりはらみやにし なら へいあんじだい  
・桐原宮西遺跡…奈良～平安時代の集落遺跡
  - きりはらみやきた はかあと  
・桐原宮北遺跡…弥生時代後期～古墳時代前期の墓跡、古墳時代～平安時代の集落遺跡
- へいせい ねんど ながのけんまいぞうぶんかざい けんどうたかだわかつきせん けんせつ ききだ きりはらちく  
平成23年度から、長野県埋蔵文化財センターが県道高田若槻線の建設に先立ち、桐原地区  
よしだ  
や吉田地区で発掘を行っています。いままでに、弥生時代のりゅうろあと、古墳時代～平安時代の  
しゅうらくあと いどあと ほりあと はっけん  
集落跡、中世の墓跡や井戸跡・堀跡などが発見されています。

### やよいじだい りゅうろあと 1 弥生時代の流路跡

弥生時代(約2,000年前)の流路跡が1条みつ  
かっています。流路内からはたくさんの土器片と石器  
が出土しており、近くに集落が存在していた可能性  
を考察することができそうです。

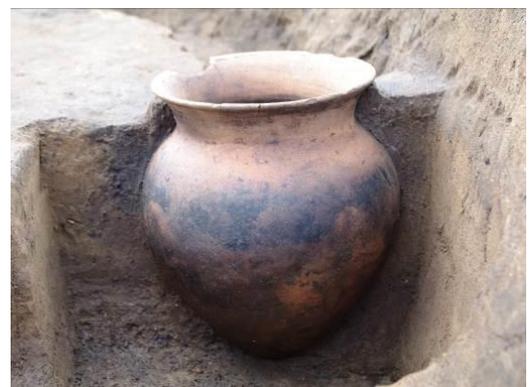


流路跡の調査風景

### こふんじだい しゅうらくあと 2 古墳時代の集落跡

古墳時代(約1,600～1,400年前)の堅穴住居跡は、  
12軒みつかっています。住居跡は、調査地の外側にも  
つづいており、大きな規模をもった集落であったこと  
が予想されます。住居跡は、いずれも一辺の長さ  
が7mほどの正方形で、建物の向きは西側にやや  
かたむ  
傾いています。

住居跡からは、たくさんの土器片が出土しましたが、  
だいごう だいかべ  
第56号堅穴住居跡(SB56)とした住居の壁ぎわに  
ゆかめん う じょうたい かんぜん かたち かめ はっけん  
は、床面に埋められた状態で完全な形の甕が発見  
されました。



床面に埋められていた土器(甕)

### 3 奈良・平安時代の集落跡

奈良・平安時代の遺構は、<sup>いこう</sup> 竪穴住居跡 83 軒、<sup>いどあと きどころ</sup> 井戸跡1基、土坑などがみつかっています。住居跡の多くは平安時代前期（約 1,100 年前）です。住居跡は何軒も重なり合った状態であることから、長い間、同じようなところに住んでいたことがわかります。古墳時代と同様に、<sup>きょじゅういき</sup> 居住域は調査区外へと続いており、<sup>だいきぼ</sup> 大規模な集落であったと思われます。住居跡の多くは、一辺が 5m ほどの大きさに、古墳時代の住居跡に比べて小形です。建物の向きは南北方向にそろっています。またカマドが残っている住居跡では、そのほとんどが北壁の中央付近につくられています。

出土した土器の多くは、<sup>いっぱんてき</sup> 一般的な集落で使われていた甕や坏などですが、なかには<sup>ふでた つきえんめんけん</sup> 筆を立てる部分のついたすずりや<sup>おびかなぐ</sup> 帯金具（ベルトの金具）など一般的な集落では見られない、<sup>やくにん</sup> 役人が使う道具なども発見されています。

このことから調査地周辺に役所の存在を考えることができそうです。



平安時代の竪穴住居跡

### 4 中世（鎌倉～室町時代）の居館跡

中世の遺構は、<sup>ほりあと</sup> 堀跡1条、<sup>いどあと</sup> 井戸跡1基、<sup>はかあと</sup> 墓跡4基、土坑などがみつかりました。

桐原地区にある堀跡は、調査区の西寄りで南北方向に直線的に伸び、北側で東西方向へ曲がるらしいことがわかりました。堀跡の規模は幅約 3m、深さ約 1.5m あります。西寄り南北方向の溝には幅約 2m にわたり、堀の途切れる箇所が確認されており、<sup>でいりぐちぶ</sup> 出入口部にあたる土橋ではないかと考えられます。調査区の東側には中世武士の居館跡とされる高野氏館跡（桐原要害）の推定地があり、堀跡はその居館をとりかこむ堀だと思われます。

また桐原地区で3基、吉田地区で1基の墓跡がみつかりました。桐原地区の墓の人骨はいずれも頭を北にして手や足を折り曲げた格好で埋葬されました。吉田地区の墓の人骨は、残りの状態が悪く、全体の形がはっきりしませんが、木製の棺に入れて埋められていた痕跡が残っていました。



中世の堀跡

あさかわせんじょうちいせきぐん  
浅川扇状地遺跡群



りゅうろからみつけた弥生時代の土器（壺）



こぶんじだい じゅうきよあと ゆか かんけい ちか かめ  
古墳時代の住居跡の床からみつけた完形に近い土器（甕）

はっくつ  
ここを発掘  
するよ！

こっちが  
フレハブだよ



もくせい ひつぎ ほうむ じんこつ  
木製の棺に葬られた人骨

ながのでんてつせん  
長野電鉄線

よしだたまちちく  
吉田田町地区

きりはらちく  
桐原地区

